

8月10日は「ハートの日」

犬の心疾患 7歳過ぎたら要注意

アニコムが、「どうぶつ健保」の給付金請求データをもとに犬の心疾患について調査を行ったところ、人間同様、加齢とともに発症率が上昇していくことがわかりました。特に老齢期にさしかかる7歳からの増加が顕著です。

心疾患は、見た目ではわかりにくい病気ですが、心臓が悪くなると、疲れやすくなる、散歩に時間がかかる、散歩に行きたがらないなど運動を好まなくなる傾向が見られます。

愛犬の太り過ぎは、心臓に負担をかけるので、日頃から体重の増減には気を配り、太り過ぎないように気をつけましょう。

シニア犬には、急激な運動をさせない、大きなストレスを掛けないなど、注意深く接してあげることも必要です。

心疾患の原因のひとつとなるフィラリアの予防はもちろん、若い頃から定期的に動物病院で検診を受け、愛犬を心疾患から守ってあげましょう。

【年齢別心疾患発症率】



【集計方法】

2004/1/1～12/31に新規または継続で「どうぶつ健保」に加入した犬 203,208頭の加入後一年間の給付金請求データを集計。

ハートの日：「ハー(8)ト(10)」の語呂合わせから、日本心臓財団と厚生省(厚生労働省)により1985(昭和60)年に同財団の設立15周年を記念して制定された。